

# 事務所通信 リソース

5月号 VOL. 47

## 税理士法人 中央総合会計

〒070-0037

旭川市7条通13丁目 59 番地 4

TEL : 0166-25-4131 0166-23-0010

FAX : 0166-25-4132 0166-23-7543

URL : <http://csk-i.com/>

E-mail : [cyuou@csk-i.com](mailto:cyuou@csk-i.com)



いつもお世話になります。

元禄2年3月27日の明け方、江戸を出発した松尾芭蕉は、約 150 日間、六百里(約 2400 キロ)にもおよぶ果てしない旅に出ました。「月日は百代の過客にして、行かふ年も又旅人也」の序文から始まる『おくのほそ道』です。この日を新暦に換算した5月16日は「旅の日」と呼ばれています。

## 平成二十七年一月一日から相続税が改正に

相続税の目的には「富の再分配」や「格差の固定化防止」があります。しかし、バブル崩壊後、地価は下落しましたが相続税の基礎控除は逆に拡充されました。そのようなことも要因のひとつとなり、相続税の課税件数の割合は昭和六十二年の7.9%から

平成二十三年には4.1%にまで低下しました。今回は「相続税」を強化する一方で、「補完役」である「贈与税」は緩和となります。生前贈与を一層促進させ

ることが贈与税改正の目的の一つです。高齢者の保有資産を若い世代へ早期に移転させて経済の活性化にもつなげたいと考えています。

今回の相続税改正の注目ポイントは、定額部分が5000万円から3000万円に、法定相続人数比例部分が法定相続人一人につき1000万円から600万円になることです。このため法定相続人を仮に配偶者と子二人の計三人とした場合、従来なら相続財産が8000万円を超える場合であったものが、改正後は4800万円を超える場合から相続税がかかることとなります。

このようなことから今後は、緩和された贈与税をより上手く活用する等十分な相続対策を考えていきたいところです。相続税は早い時期から計画的に対策することが大切です。

当事務所では、相続税相談センターを立ち上げ事前対策のご相談をつけております。是非「ご連絡下さい」。



## 【高級肉のステーキをより安く提供して大評判！】

『いきなり！ステーキ』は東京銀座にある立ち食いステーキ専門店です。前菜も座席もないのでお客の回転が速く、圧倒的なコストパフォーマンスの良さで行列が絶えません。

流行の立食スタイルですが、炭焼きステーキレストランの姉妹店として「ステーキを味わう贅沢」のみに的を絞ったのが特徴です。こだわりの熟成肉を分厚く切り、絶妙な加減でジューシーに焼き上げた究極のステーキが大評判。消費者のニーズならぬ胃袋をギュッとつかんで繁盛は続きそうです。



## 【血の通った組織】

ある会社のA社長は組織というものを「クルマ」に例えていました。「クルマはエンジンやハンドルやタイヤなど様々な部品の集合体だが、部品だけを集めてもクルマにならない。各部品がコードでつながってはじめてクルマという完成品ができあがり、ようやく動くようになる。これは組織も同じだろう」と。

組織には上下関係がありますが、上下の関係だけで成り立っているうちは単なる人の集合体で自主性も協調性も創造性も期待できません。しかし、上下関係の中にも横のつながりが生まれるとチームとして機能しはじめます。横のつながりとはクルマでいう部品同士をつなげる「コード」のようなもの、すなわち人間関係なのです。ところが、人間関係にはクルマをつくるような「決められた工程」がありません。相手にも感情があるので、「今から人間関係を結ぼうじゃないか!」「そうしよう!」とはいかないから苦労するのだとA社長は言います。

そこでA社長が心掛けていることは、部下から「この人は信頼できそうだ」と思ってもらえる行動だそうです。基本は小さな約束を守ること。つまり言動の一致です。「明日の朝電話する」と言ったら翌日の朝一番で電話を入れる。それが小さな用事でも、朝一番で電話する必要性がなくても、約束を守ってもらえると「私はこの人から大事にされている」と感じて自然と相手に好意を持つものだから。心理学的には「信頼」と「好意」は同次元のポジティブな感情とされており、相手から好意を持ってもらえると信頼関係を築きやすいのだそうです。「すぐに確認してきます」と言って歩いて行く人と、その場から急ぎ足で立ち去る人と、どちらが好印象かは比べるまでもありません。

言葉と行動の一致は好意につながります。好意は「見えないコード」となって人と人を結び、やがて「信頼」というクルマが動き出します。

上下関係だけでも仕事はできますが、そこに人間同士の付き合いがあれば血の通った組織となるのでしょう。



## 相続税の改正前に老人の死亡が増える？

中央総合会計 代表税理士 井内 敏樹

平成 26 年度が先月より始まりました。国の会計年度はご存知のように 4 月 1 日に始まり翌年の 3 月 31 日に終了します。

年度とは組織等の事務作業などの目的のための任意の一年間の区切りです。企業の事業年度も任意に決めることができます。

北海道では季節の変わり目、あるいは国依存の体質のためか 4 月 1 日からの 1 年間の場合が多いようで、当事務所のお客様も 3 分の 1 がこの年度で占められています。事業年度終了後 2 ヶ月以内の決算書作成、法人税の申告が原則ですので、5 月は当事務所の最繁忙期となります。

年度に対して 1 月 1 日より始まる 1 年間を“年”といい“年度”と区別します。より明確に“暦年”ということもあります。

個人の所得税は全てこの暦年で申告することとなります。(1 月 1 日から 12 月 31 日までの所得により税額を算出し翌年の 3 月 15 日までに申告)

税制改正では法人関係は 4 月 1 日より開始する事業年度から…、個人関係は〇年(又は 1 月 1 日)から…とする改正が多いようです。

1 面に記載した相続税の改正も「平成 27 年 1 月 1 日」からとなっています。

ところで今年に入って入院中の高齢の資産家の死亡が増えているとか、延命措置をしていたのが相続税の増税前に…。

ブラックなジョークのようですが、税法によって人間の寿命が変わるなら本当に怖い話ですね。

